

近畿地区会議ニュース



令和5年度 日本学術会議

近畿地区会議の活動について

近畿地区会議代表幹事

第2部会員 村山 美穂

(京都大学野生動物研究センター・教授)

昨年10月より第26期の日本学術会議がスタートしました。前期近畿地区会議代表幹事をお務めいただいた高山佳奈子先生の後任として、今期、村山美穂が代表幹事をお引き受けすることになりました。不慣れなこともあり色々ご迷惑をおかけすることになるかもしれませんが、どうぞよろしくお願い申し上げます。近畿地区会議事務局は、引き続き京都大学にお願いしております。京都大学研究推進部のみなさまには、改めてお礼申し上げます。言うまでもなく近畿地区会議の運営は、会員のみなさまのご協力なしにはうまく進めることができません。ぜひともみなさまの積極的な参画を心より願います。

日本学術会議は全国を7地区に分け、会員及び連携会員をもって組織された地区会議を運営しております。第26期の近畿地区の会員及び連携会員数は、首都圏に次ぐ431名（令和5年10月時点）という大世帯です。地区会議運営要綱は、その目的を、第2条に「日本学術会議の諸活動を地区内の科学者等に周知徹底し、及び日本学術会議に対する意見、要望を汲み上げて日本学術会議と科学者との意思疎通を図るとともに、地域社会の学術の振興に寄与すること」と定めています。地区会議は、地域社会の学術・文化の振興を担う基本単位として機能するとともに、学術研究の成果を地域の市民に広く還元する役割も担う必要があります。

近畿地区会議は、地区運営協議会を毎年2月頃開催し、その運営方針を審議し決定しています。令和5年度は、学術講演会のテーマとして幾つか提案されたものの中から、男女共同参画を推進するた

めに「女性の活躍から未来を考える」を開催しました。今回のテーマは、近畿地区会議運営協議会委員の高山佳奈子先生（京都大学教授）、小山田耕二先生（大阪成蹊大学教授）、伊藤公雄先生（京都産業大学客員教授）など多くの方々のご努力で実現したものです。

講演会の詳細についてはここでは申し上げませんが、私も発表者の一人として参加させていただき、様々な分野の最先端研究のお話を、大変心躍る思いでうかがいました。また過去から現在までの女性の社会的な活躍について、様々な角度からの興味深い知見をご紹介いただきました。さらにパネリストとして大学院や学部の学生にご参加いただいたことで、議論に一層の広がりができたと思います。シンポジウム後にも活発な意見交換ができ、ネットワークを築くことができました。

場所の手配などはいつものことながら、事務局の方々をはじめ多くの方々のお手を煩わせました。ありがとうございました。

講演会の内容については本号の学術講演会報告を見ていただければと思います。なお、多くの参加者から、興味深いとともに有益だったという賛辞をいただきましたことを付け加えさせていただきます。

近畿地区会議主催の学術講演会・シンポジウムは、地区独自の学術文化懇談会との密接な連携に基づいたものです。学術会議会員、連携会員とともにこの懇談会との協働体制に基づく活動によって、今後とも、一般市民の方々にも日本学術会議のあり方とその社会貢献の姿を広く知っていただく機会にしたいと願っています。令和6年度も、地区の皆様方にとって興味深いテーマを選び開催したいと思っています。

日本学術会議近畿地区会議学術講演会

「女性の活躍から未来を考える」

実施概要

日 時：令和5年9月9日（土） 13時00分～17時00分
主 催：日本学術会議近畿地区会議、京都大学
後 援：公益財団法人日本学術協力財団
場 所：京都大学国際科学イノベーション棟 シンポジウムホール
(オンライン・対面併用開催)

プログラム

開会の挨拶

望月 眞弓 日本学術会議副会長、日本学術会議第二部会員、慶應義塾大学名誉教授

時任 宣博 京都大学理事、副学長

趣旨説明

高山 佳奈子 日本学術会議近畿地区会議代表幹事、日本学術会議第一部会員、
京都大学大学院法学研究科教授

講演

招待講演「不平等社会の中で対等な生き方を求めた日本中世の女性たち」

田端 泰子 京都橘大学名誉教授

最先端研究の紹介

講演1 「“世界初”に挑戦するということ」

高橋 政代 日本学術会議連携会員、株式会社ビジョンケア代表取締役社長

講演2 「微細遺物から歴史の謎を解く」

宮路 淳子 日本学術会議連携会員、奈良女子大学大学院人文科学系教授

講演3 「遺伝情報を活用して野生動物を絶滅から守る」

村山 美穂 日本学術会議第二部会員、京都大学野生動物研究センター教授

ジェンダー論に関する講演

「ジェンダード・イノベーション～ジェンダー視点は学術研究を変えることができるか～」

伊藤 公雄 日本学術会議連携会員、京都産業大学現代社会学部現代社会学科客員教授

パネル討論・質疑応答

パネリスト：上記講演者に加えて、岡本 優芽（京都大学大学院理学研究科学生）
岡田 侑里英（大阪大学工学部学生）

コーディネータ：小山田 耕二 日本学術会議第三部会員、
大阪成蹊大学データサイエンス学部学科長・教授

京都の女性学長からのメッセージ「ジェンダー平等の実現に向けて：京都女子大学の挑戦」 竹安 栄子 京都女子大学学長

全体総括

三成 美保 日本学術会議連携会員、追手門学院大学法学部教授

総合司会

宮地 充子 日本学術会議第三部会員、大阪大学大学院工学研究科教授

講演の概要

近年、ジェンダーの多様性と平等への関心が日本でも急速に高まっています。日本学術会議はこれに先がけて、女性構成員の割合を高め、また関連するさまざまな問題への取組を続けてきました。私たちの目指す未来社会は、単に人を男女に二分して女性を登用するといったものではなく、多様な個性を輝かせる基盤を持つ社会です。それへの足がかりの一つとして、本シンポジウムは、女性の活躍の歴史、最先端の女性研究者の現場、そしてジェンダーに関する最新の議論状況の紹介を企画しました。若い世代の方々の進路選択にも役立つことと存じます。オンラインでもご視聴になれますので、どの地域におられる方も、積極的なご参加をお願いします。



開催報告

令和5年9月9日（土）に、日本学術会議近畿地区会議および京都大学は、地域社会の学術の振興に寄与することを目的として、日本学術会議近畿地区会議 学術講演会「女性の活躍から未来を考える」を開催しました（オンライン・対面併用開催）。

冒頭に、望月眞弓 日本学術会議副会長（慶應義塾大学名誉教授）および時任宣博 京都大学理事・副学長の挨拶のあと、高山佳奈子 日本学術会議近畿地区会議代表幹事（京都大学大学院法学研究科教授）より本講演会の趣旨説明が行われました。

続いて、田端泰子 京都橘大学名誉教授より「不平等社会の中で対等な生き方を求めた日本中世の女性たち」と題した招待講演が行われました。その後、最先端研究の紹介として、高橋政代 株式会社ビジョンケア代表取締役社長より「"世界初"に挑戦するということ」、宮路淳子 奈良女子大学研究院人文科学系教授より「微細遺物から歴史の謎を解く」および村山美穂 京都大学野生動物研究センター教授より「遺伝情報を活用して野生動物を絶滅から守る」と題した講演が行われました。続いて、伊藤公雄 京都産業大学現代社会学部現代社会学科客員教授より「ジェンダード・イノベーション～ジェンダー視点は学術研究を変えることができるか～」と題して、ジェンダー論に関する講演が行われました。

講演後には、パネリストとして学生の京都大学大学院理学研究科 岡本優芽さんおよび大阪大学工学部 岡田侑里英さんが加わり、小山田耕二 大阪成蹊大学データサイエンス学部学科長・教授の進行によるパネル討論が行われました。また、参加者からも多数の質問が寄せられ、活発な質疑応答が繰り返されました。

パネル討論後には、竹安栄子 京都女子大学学長より、京都の女性学長からのメッセージ「ジェンダー平等の実現に向けて：京都女子大学の挑戦」と題して、お話をいただきました。

最後に、三成美保 追手門学院大学法学部教授より全体総括があり、盛況のうちに終了しました。本講演会には約 200 名（うち、オンライン約 140 名）の参加があり、終了後のアンケートでは「女性の研究者の方々のご活躍を肌で感じることができ、とても勉強になった。」、「ジェンダーに関して深く考える、良い機会となった。」などの感想が寄せられました。



開会挨拶（望月副会長）



開会挨拶（時任京都大学理事・副学長）



趣旨説明（高山教授・第 25 期代表幹事）



招待講演（田端名誉教授）



ジェンダー論に関する講演（伊藤客員教授）



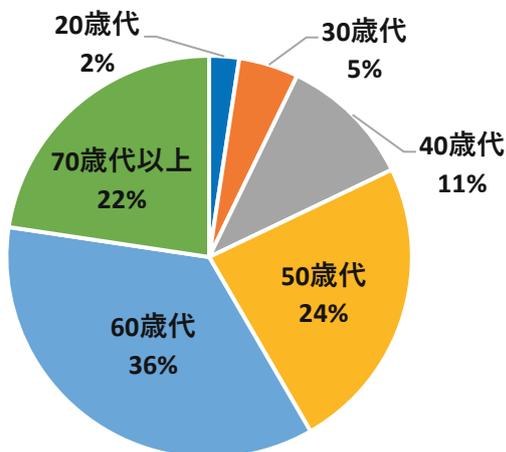
パネル討論の様子

日本学術会議近畿地区会議学術講演会

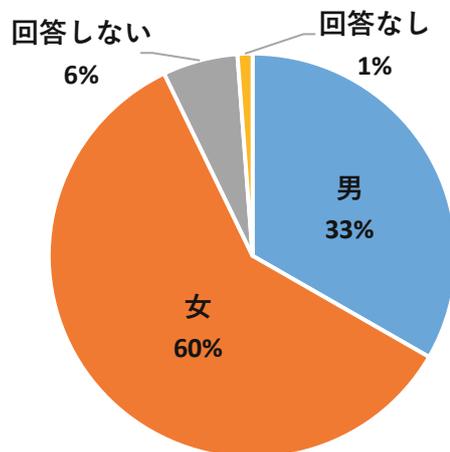
「女性の活躍から未来を考える」アンケート集計表

【講演会参加：200名 回答：84名】

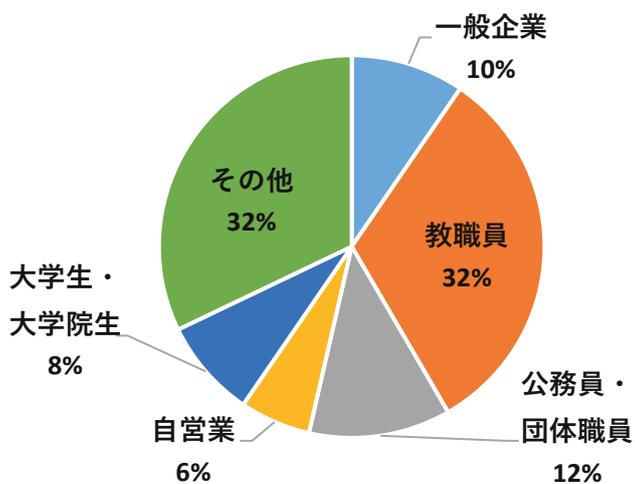
(1) 年齢



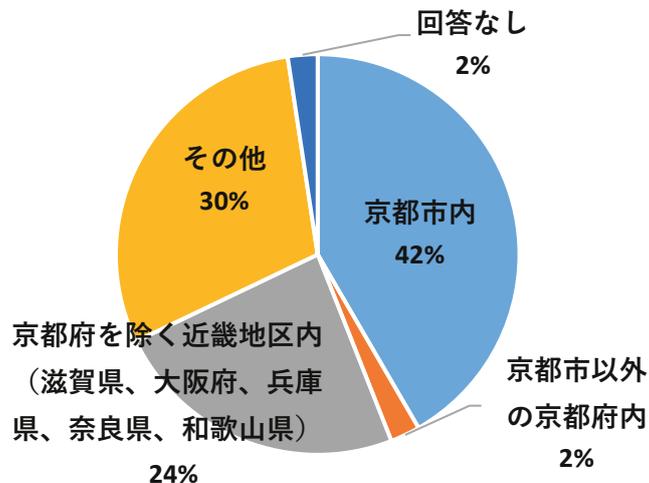
(2) 性別



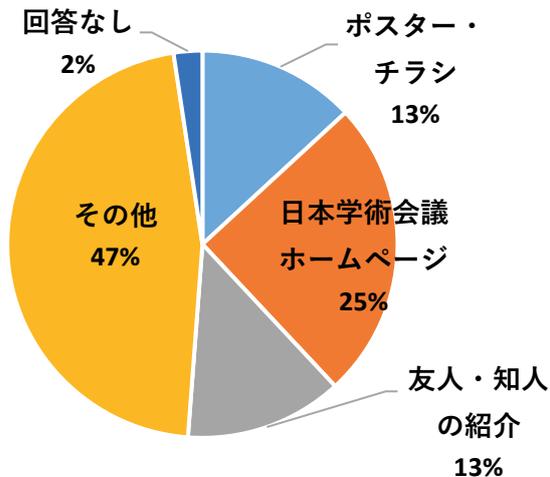
(3) 職業



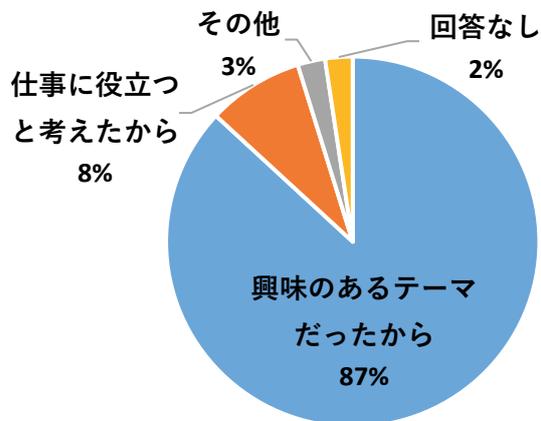
(4) 居住地



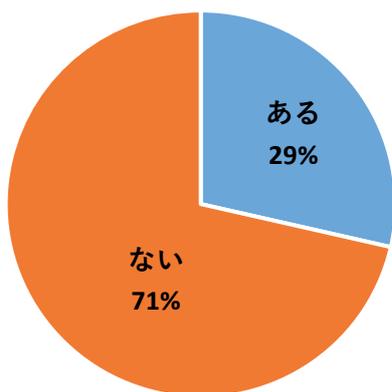
(5) 講演会を知った方法



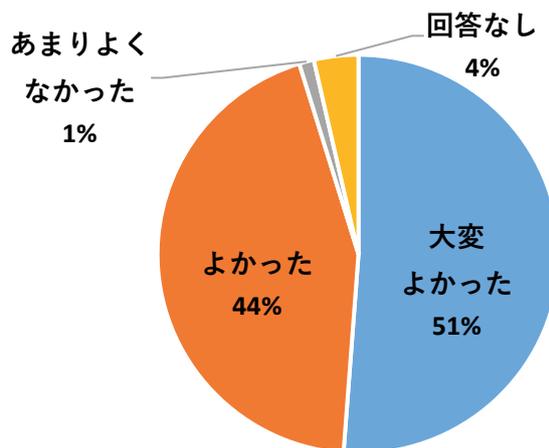
(6) 参加動機



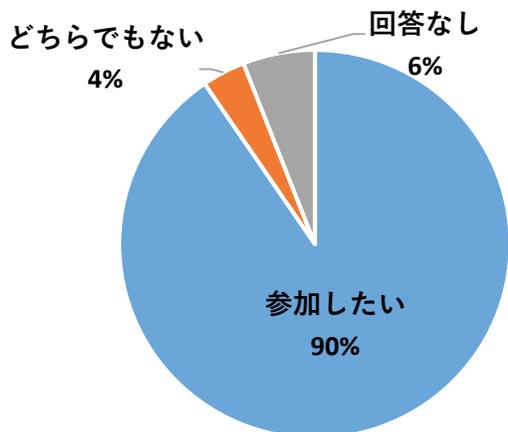
(7) 今までの参加有無



(8) 講演会の内容



(9) 今後参加したいか



*** 日本学術会議近畿地区会議とは ***

日本学術会議は、科学が文化国家の基礎であるという確信の下、行政、産業及び国民生活に科学を反映、浸透させることを目的として、昭和 24 年（1949 年）1 月、内閣総理大臣の所轄の下、政府から独立して職務を行う「特別の機関」として設立されました。

職務は、以下の 2 つです。

1. 科学に関する重要事項を審議し、その実現を図ること。
2. 科学に関する研究の連絡を図り、その能率を向上させること。

日本学術会議は、我が国の人文・社会科学、生命科学、理学・工学の全分野の約 87 万人の科学者を内外に代表する機関であり、210 人の会員と約 2000 人の連携会員によって職務が担われています。

日本学術会議の役割は、主に（Ⅰ）政府に対する政策提言、（Ⅱ）国際的な活動、（Ⅲ）科学者間ネットワークの構築、（Ⅳ）科学の役割についての世論啓発です。

日本学術会議には、地域の科学者と意思疎通を図るとともに学術の振興に寄与することを目的として、北海道、東北、関東、中部、近畿、中国・四国、九州・沖縄の 7 つの地域に地区会議が置かれています。これらの地区会議は、地域の求める情報に即したテーマを設定した学術講演会の開催や科学者との懇談会、地区会議ニュースの発行などを行っています。

地区会議運営協議会は、当該地区に居住する会員又は勤務地を有する会員の中から各部ごとに選出された会員 8 名（令和 6 年 2 月時点）で構成されており、現在、近畿地区会議においては、第 2 部会員の村山美穂（京都大学野生動物研究センター教授）が代表幹事を務めています。

※「日本学術会議地区会議運営要綱」は以下のリンク先よりご覧ください（PDF 形式）。

<https://www.scj.go.jp/ja/scj/kisoku/15.pdf>

近畿地区会議運営協議会

代表幹事	村山美穂	（第 2 部）
	上東貴志	（第 1 部）
	中村征樹	（第 1 部）
	矢野桂司	（第 1 部）
	北島薫	（第 2 部）
	大場みち子	（第 3 部）
	下田吉之	（第 3 部）
	小山田耕二	（連携会員）

近畿地区会議事務局

〒606-8501
京都市左京区吉田本町
京都大学 研究推進部研究推進課内
TEL: 075-753-2041
FAX: 075-753-2042
メールアドレス
scj-kinki@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp

日本学術会議ホームページ

<https://www.scj.go.jp/index.html>